

富士電機グループへの貢献と 継続的発展のための技術力強化



原嶋 孝一 (はらしま こういち)

富士電機アドバンステクノロジー株式会社
取締役社長

新年あけましておめでとうございます。

富士電機アドバンステクノロジー株式会社は、2003年10月の純粋持株会社化に伴い研究開発部門を統合して、富士電機グループの研究開発の核を担う会社として発足しました。設立以来、ビジネスに貢献する研究開発、研究開発のスピードアップ、高い技術への挑戦が大きな方針です。

今年は、中期計画の仕上げの年にあたります。中期計画の柱となっている中期研究開発計画は、重点機種を絞って新製品の上市計画と研究開発の整合を図ること、競争力のある新製品を継続的に生み出していくために必要なコア技術の強化を図っていくことがポイントになっています。これを達成するためには、各事業会社との緊密な連携による商品企画と資源の集中により短期間に開発を完了することが重要になります。また、競争力のある商品は差別化された技術により生まれるものであり、基礎研究を充実してコア技術の深化を目指していきます。

電機システム分野では、膜ろ過による高度水処理システム、バイオ技術を核にした有機性廃棄物メタン発酵発電システム、生産現場の制御・監視などの現場系情報制御技術を核に上位の経営情報までを垂直統合させた新しい情報ソリューション、パワーデバイス技術と電力変換技術をコア技術とした無停電電源装置（UPS）、産業用可変速高圧インバータに注力します。機器制御分野では汎用インバータの低ノイズ化・小型化、低圧遮断器・電磁開閉器など低圧器具のグローバル化対応に取り組みます。電子デバイス分野では薄ウェーハ・トレンチ、モジュール設計技術をコア技術にした省電力・低ノイズパワーデバイス（IGBT、

MOSFET）、業界最高水準の低オン抵抗電源IC、薄型インダクタを複合したマイクロ電源、磁気記録媒体の適用拡大に対応したガラス基板媒体、高密度垂直磁気記録技術に注力します。流通システム機器分野では省エネルギートップランナー対応・ノンフロン自動販売機、通貨関連機器、最適化予測制御技術によるスーパーマーケット・コンビニエンスストアの省エネルギー技術、非接触ICカード機器システムなどを重点的に取り組んでいきます。

新規事業としては、業界最高レベルの高信頼性固体高分子燃料電池、当社固有のフィルム基板を使用した極軽量アモルファスシリコン太陽電池、フルカラー色変換方式有機発光素子、低振動極低温パルスチューブ冷凍機などについても開発・事業化の加速を図ります。

研究開発・製品化の加速のために、機能開発と同時に分析・解析技術の一層の高度化を進めるとともに、計測評価技術に基づいたシミュレーション技術の高度化の取組みを行い、効率的な研究開発を進めます。また、研究開発時点から製造技術的取組みを強化しスムーズな製品化を図っていくことにより、製品化初期からの高品質、高信頼性を確保し、製品の垂直立上げを図り高収益な製品を目指します。

また、中期計画のもう一つの柱である原価削減計画に関しても、工場部門を設計技術、製造技術の面でも積極的に支援し実効ある取組みをしていきます。

技術力が富士電機グループの力の源泉であり、富士電機アドバンステクノロジー株式会社とその中心になり継続的発展の基盤を築いていく所存です。